

# 郷土に誇りを持ち、郷土を愛する子供の育成

姫路城や我がまちの魅力をいかに高め、未来につないでいくか

姫路市教育委員会

## 1. はじめに

本市では、「ふるさと姫路の未来をひらく人づくり」を理念とした「第2期姫路市教育振興基本計画」を令和2年3月に策定した。学校教育分野においては、小中一貫教育を中心に、各校種間の積極的な連携を図るとともに、学校と地域の連携・協働体制の構築等に取り組んでいる。

各中学校ブロックにおいては、学校や地域の実態に応じた「目指す子供像」の具現化に向け、それぞれの地域に根ざした9年間の特色ある教育課程「ブランドカリキュラム」を作成し、カリキュラムに基づいた実践を現在進めている。

また、令和5年12月に姫路城が世界遺産に登録されて30年を迎えるにあたり、「特別版お城 EXPO in 姫路」を9月に3日間開催し、企画展示として姫路城に関する学習の展示を姫路城周辺の小学校が行った。今後は、市内各学校においても、郷土の宝である姫路城を、学習材として有効に活用していきたいと考えている。



世界文化遺産 姫路城

## 2. 教育目標

### ◆ 「第2期姫路市教育振興基本計画」(令和2年3月策定)

姫路市教育振興基本計画では、基本理念の実現に向けて、学校教育の充実や生涯学習社会の構築に取り組むことにより、下記のような人間が育つことを目指している。

(基本理念)

「ふるさと姫路の未来をひらく人づくり」～自立し、認め合い、つながる教育を目指して～

(目指す人間像)

- 知・徳・体の調和がとれ、夢や志を持ち、自ら学び続ける自立した人間
- ふるさとを愛し、社会の持続的な発展のために連携し、協働できる人間
- 互いの伝統や文化を尊重し、多様な人々と共生する人間

## 3. 教育委員会・学校での取組

### 第3回城下町スクール・サミットの開催

「城下町スクール・サミット」は、姫路城に隣接する7つの小学校(うち1つは義務教育学校)(城東小・白鷺小中・野里小・城乾小・城西小・船場小・東小)が相互連携し、姫路城を核とした郷土教育を推進することで、協働的に社会の発展に寄与することを目指す取組である。上記の7校は、姫路城に隣接しているため、城下町に根付く文化がある校区である。

具体的な目的は以下の4点である。

- (1) 「ふるさとを愛し、社会の持続的な発展のために連携し、協働できる人間」を育成する。
- (2) 姫路城に隣接する中学校ブロックの小学校で姫路城を核とした郷土教育を推進相互連携し、協働的に社会の発展に寄与する。
- (3) 小中一貫教育の中学校ブロック内の小学校同士の連携を推進する。
- (4) 調べ学習、郷土教育を通して、ふるさと姫路を愛する児童の育成に寄与する。

年度当初に、各校校長と担当教諭、市教委担当指導主事の参加によるオンライン会議を実施し、取組の目的や発表時期、発表のテーマについて協議を行った。その会議では、本年度のテーマ「姫路城や我がまちの魅力をいかに高め、未来につないでいくか」が設定されるとともに、姫路城に関することにこだわることなく城下町魅力を発信していくことが確認された。



城下町スクール・サミット参加校の位置

その後各校で、総合的な学習の時間を中心に、自分たちの校区について調べ学習を行ったり、調べたことを劇やプレゼンテーションにして発表したりした。さらに、自分たちの学びを城下町スクール・サミットで発信するため、発表方法を改善したり、動画を編集したりした。

また本年度は、9月に開催された「お城 EXPO in 姫路」において、企画展示として、城下町スクール・サミット7校のこれまでの取組を紹介するパネルを姫路市役所文化コンベンション課と連携して作成するなど、取組を発信する場を広げることができた。



お城 EXPO で展示されたパネル

第3回城下町スクール・サミットは、令和6年2月19日(月)にオンラインで7校をつないで開催された。各校が15分間程度の発表を行い、それに対して、他校が感想や意見を伝えていくという形で進められた。各校が、様々な切り口で、姫路城や校区内の事物について探究的な学びを進めており、それらの魅力を再認識する機会となった。

## 4. おわりに

今年度の「第14回世界遺産学習全国サミット in たなべ」では、熊野古道周辺の小中学校のジュニア語り部が案内する「熊野古道と田辺を満喫するエクスカージョン」において、総合的な学習の時間で学んだ世界遺産の魅力を伝えながら、全国各地からの参加者に向けて、笑顔でガイドしていた。本市においても、城下町スクール・サミットの学校の児童が、総合的な学習の時間の中で、姫路城を訪れる観光客に向けてお城ガイドを行っている。本年度の全国サミットのテーマ「悠久の時をめぐりここ熊野古道から未来へつなげる道を考えよう」が示すように、世界遺産を有することの価値を再発見し、これからの生き方について考える学習を通して、持続可能な社会の担い手となる児童生徒の育成に一層邁進していきたい。